

東洋医学は「未病を治す」と言われる。最も広義での「未病を治す」ことの意味を説明しよう。

カゼを引く場合で考えてみる。西洋医学的にはカゼの原因はカゼの病原微生物（ウイルス・細菌等）ということになるわけだが、東洋医学ではそうした外から来る原因（外因）だけでなく、からだ自身が元から抱えている内側の原因（内因）を問題にし、重視する。内因は言い換えれば、広い意味で免疫力の低下であり、体質の問題である。

カゼを引いてゴホゴホと激しく咳している人がいる場所においても、ある人にはカゼが感染し、ある人にはカゼが感染しない。免疫力の低下していた人に感染し、そうでなかった人には感染しなかったということである。外因があっても必ず病になるわけではない。またカゼに感染したとしてもカゼの引き方が人によって違って来る。ある人は軽く、ある人は重い。ある人はすぐ咳になり易く、ある人はお腹に来る。ある人は発熱するが元気で発汗して一夜にして回復する。ある人は発熱は少ないが、やたらと眠くなり、寒気がする状態がだらだらと続く。同じ外因に対して、様々な病態になるのは、内因である体質が違うからである。外因だけではカゼは引かず、内因があって引くわけである。しかもその病態は外因の質と内因である体質の状態に左右される。

内因はカゼを引く前からあるわけであるから、内因を減らす事がカゼを未だ病まざる状態に対しての治療ということになる。これが「未病を治す」ということである。予防と

言ってもいいわけだが、通常言われる予防とは、病原菌の侵入を防ぐ為に、マスクをしたり、手洗いをしたりすること、あるいは睡眠・栄養をよく取ったりと体調を調えることを指している。つまり、外因を減らすことであったり、養生を指している。「未病を治す」が意味するのはもっと積極的な治療である。

内因たる体質を、東洋医学では気の滞りのあり方、そしてその具体的現れとして凝りや毒（水毒・血毒・食毒・便毒など）として見る。

カゼですぐ咳になる人は、もともと胸に痰という水毒をかかえているだろうし、お腹に

西洋医学	
診断基準	
健康（未病）	病
日常感覚	
やや辛い自覚症状	
健康（未病）	病
東洋医学	
健康（未病）	病

来る人はお腹に水毒・食毒をかかえているだろう。冷え症の人はもともと水毒や血毒を持っていて、気の流れが悪く、狭い意味での免疫力が落ちている。その為にカゼに対して発熱などの免疫反応が不十分で奥へ侵入されやすい。

西洋医学では症状を訴えても、検査結果に問題ないと病と認めてもらえない場合がある。逆に特に症状がなくても、例えば血圧が 140/90 以上であると高血圧症という病となる。病と認められれば、治療となるわけだが、病と認められなければ、治療してもらえない。それでも治療を求めれば、精神的な問題だとして精神安定剤のようなものが出されるのが落ちではないか。

東洋医学では本来、病も健康も一元であり、病と健康の区別はない。「健康」な人であろうと、「病」んでいる人であろうと、そのからだに気の滞りや毒を観て、あるいは鍼し、あるいは灸し、あるいは漢方薬を処方する。